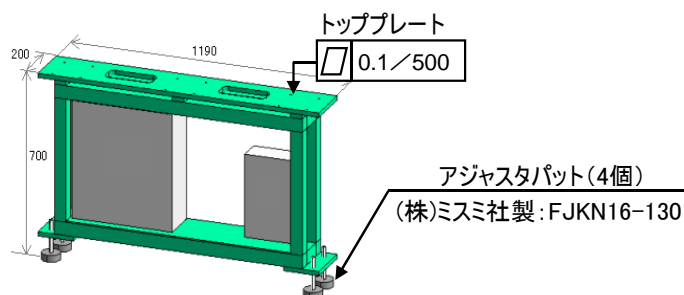


■設置方法

Step1

基準となる1台目の脚を設置する

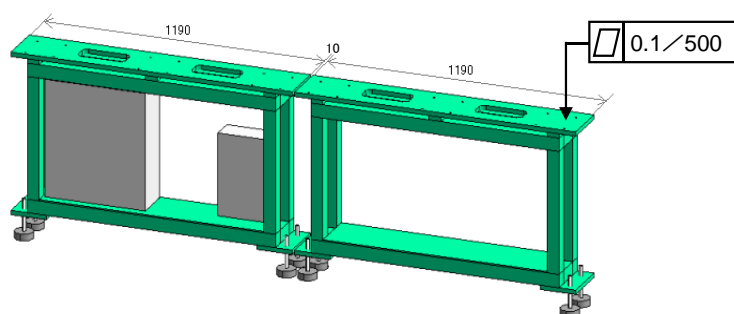
- ・トッププレートの高さと平面度をアジャスタパットで調整する。



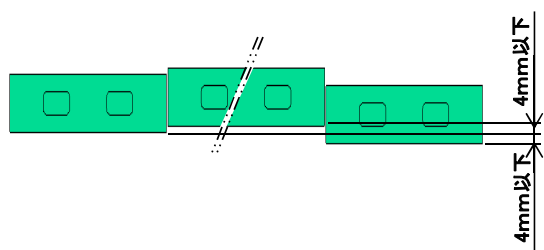
Step2

2台目の脚を設置する

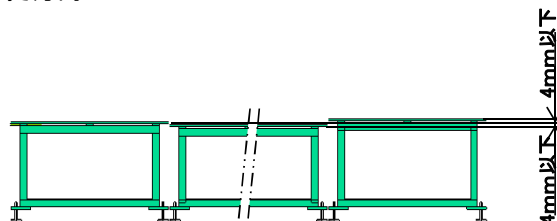
- ・トッププレートの高さと平面度をアジャスタパットで調整する。
- ・トッププレートの横位置、高さ位置、奥行位置は、1台目に対して±4mm範囲で合わせ、角度もおよそ合わせる。



〈奥行方向〉



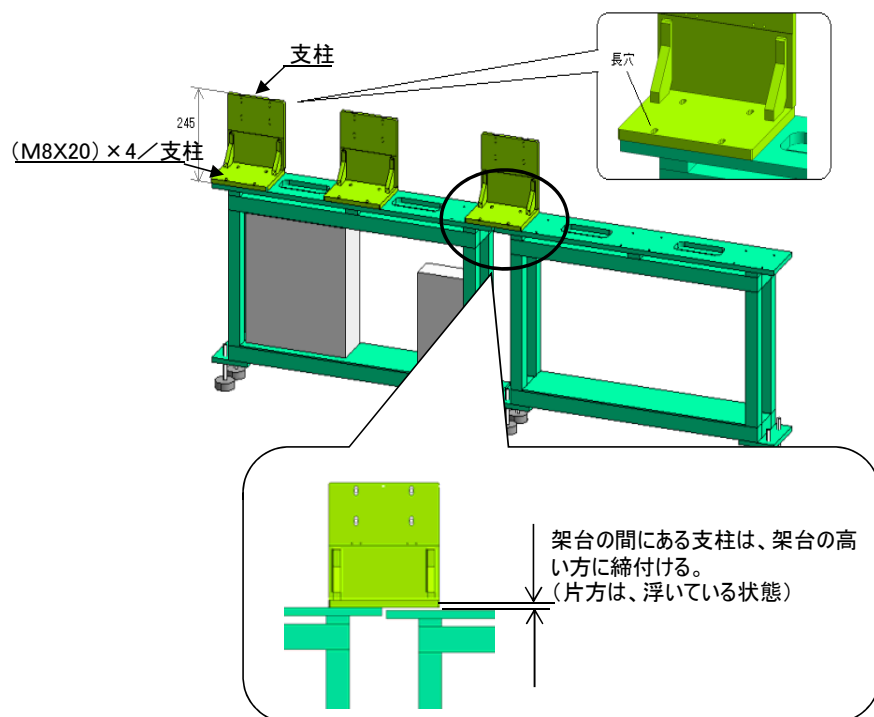
〈高さ方向〉



Step3

1台目の支柱を仮固定する

・奥行位置・横位置・角度を仮に出し、ボルト(M8X20)で仮締める。



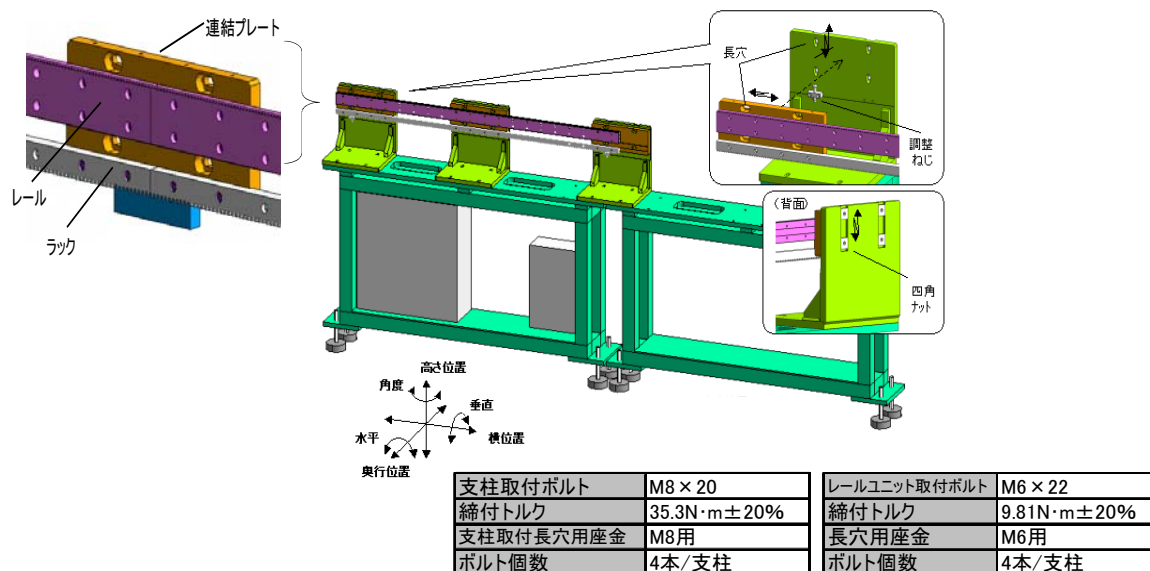
Step4

1台目のレールユニットを支柱に仮固定し、レールに倣い1台目支柱の奥行位置を調整し、固定する。

・高さ位置、奥行位置、角度を調整し、1台目すべての支柱を固定する。

・LZNN、LZZN、LYZN、LYZZの場合、高さ位置は長穴のできるだけ上の方で調整し、固定する。

レールユニット



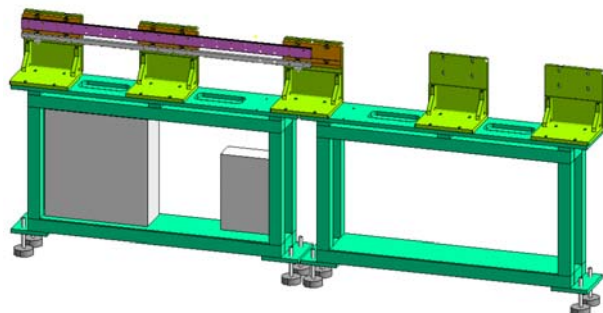
Step5

1台目レールユニットの横位置を調整し、固定する。

(Step4の図参照)

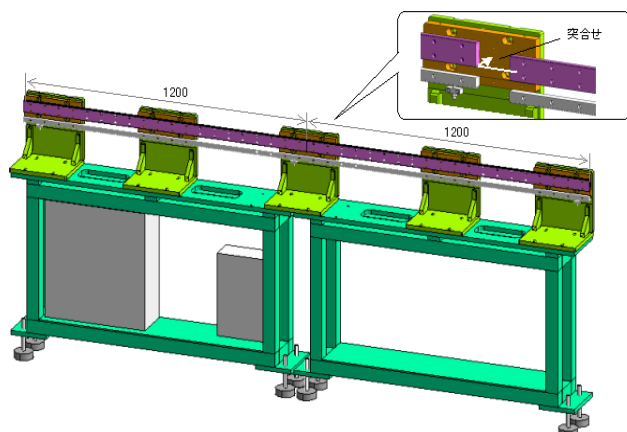
Step6

- 2台目の支柱を仮設置する。
・奥行位置、角度を仮に出す。



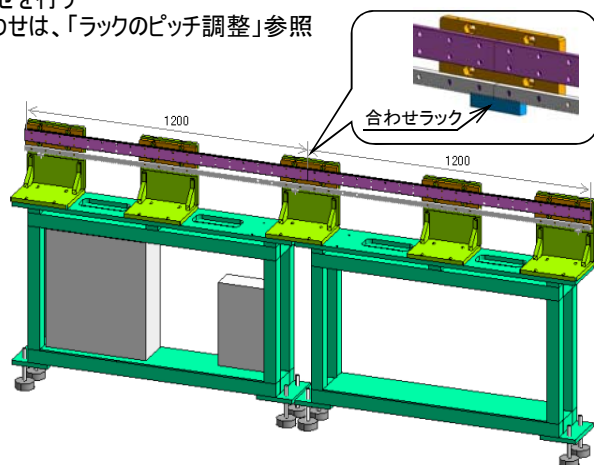
Step7

- 2台目のレールユニットを1台目の支柱に仮固定し、それに倣うようにレール基準で2台目の支柱を仮固定する。
・Step4、5同様に、横位置、高さ位置、奥行位置、角度を決定する。

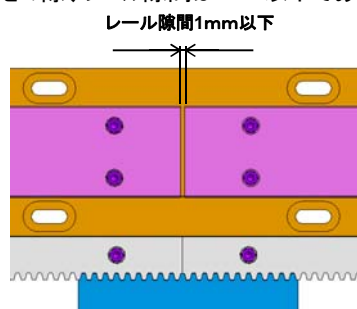


Step8

- ラックの歯合わせを行う
・ラックの歯合わせは、「ラックのピッチ調整」参照

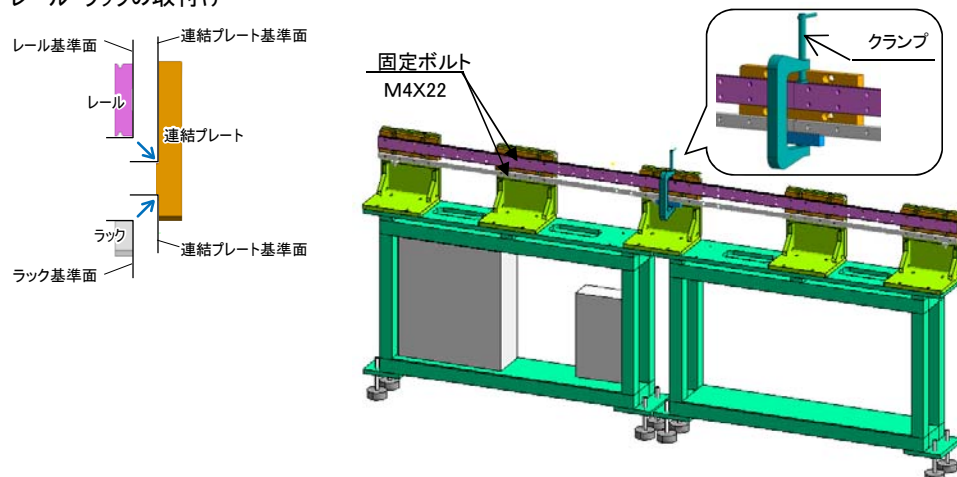


- ・ラックの歯合わせの際、レール隙間は1mm以下であること。



Step9

レール・ラックの取付け

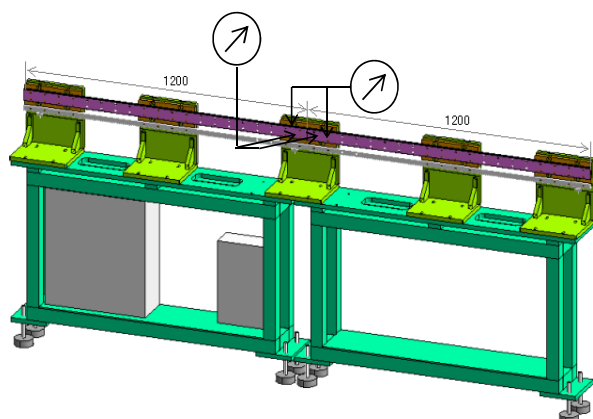


- ・連結プレート基準面にレールおよびラック基準面を合わせて固定する。
このとき、レールのつなぎ部に段差が生じないよう、小型のクランプなどで連結プレート基準面とレールおよびラック基準面を、クランプ力2300N以上で密着させ、固定。
- なお、クランプ時は、レールの傷付け防止を行う。

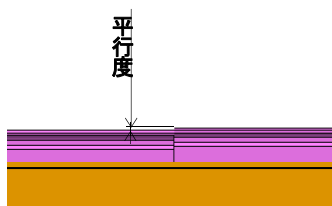
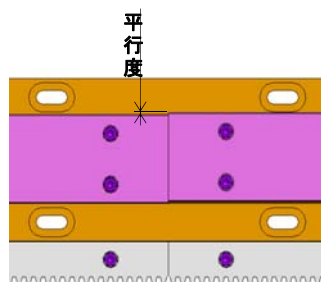
支柱取付ボルト	M4 × 22
締付トルク	2.9N・m ± 20%
ボルト個数(同梱)	6本/連結プレート

Step10

- 2台目のレールを設置し、支柱も固定する
- ・レールの取付精度確認



- ・2台目レールを基準に2台目の支柱を仮固定する。
- ・レール間の平行度(段差)が0.02mm以内に入っているか確認。
- ・0.02mm以内でない場合、取付面にゴミ・バリ等が混入していないか確認し、再組付・平行度の再確認。



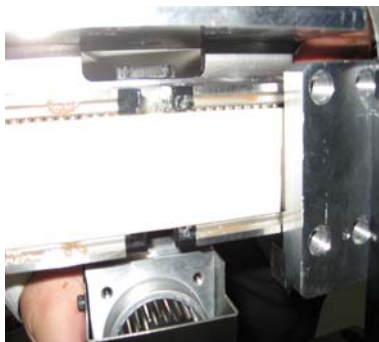
レールの平行度(段差)
0.02mm以下

Step11

レールにL軸を設置する。
L軸には、スライダの球落下防止用の樹脂レールが付属。

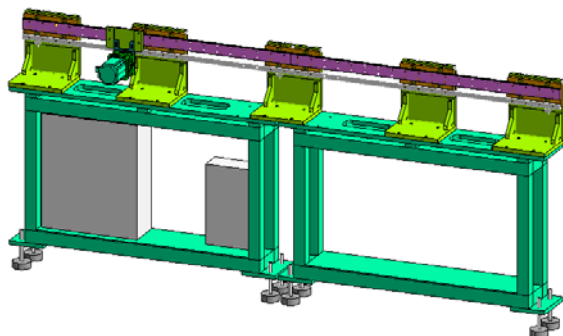


L軸のスライダの球が飛出さないよう、樹脂レールを取付けた状態でL軸をレールに挿入。



Step12

L軸を設置しバックラッシ調整を行う

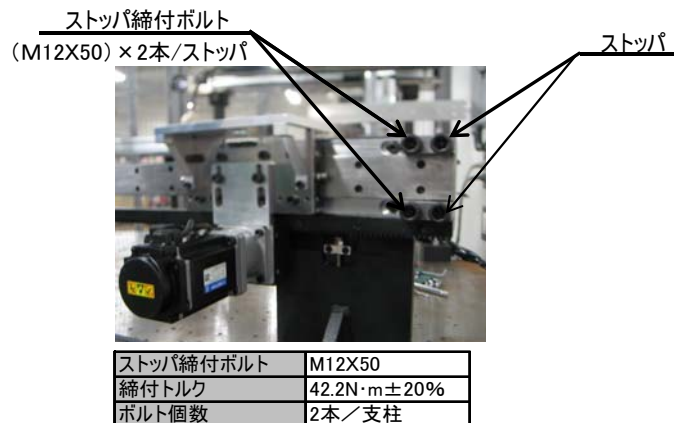


・バックラッシ調整は、「バックラッシ調整」を参照。

Step13

ストップ固定

・両サイドの連結プレートに片側2個のストップを締付ける。



Step14

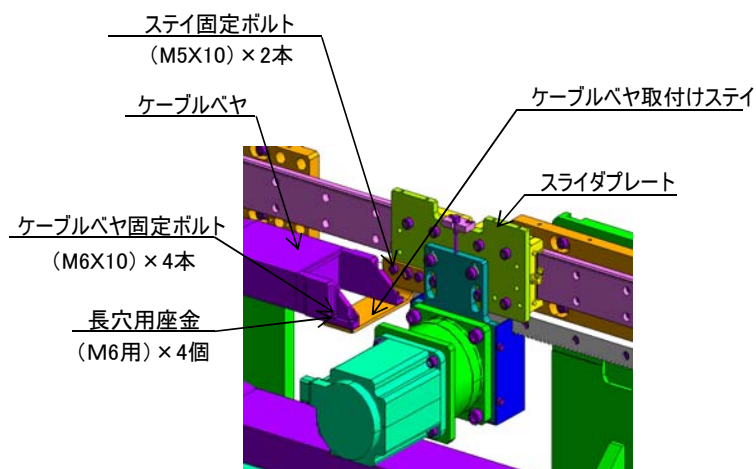
ケーブルバヤの設置

ケーブルバヤ取付けステイをスライダプレートに固定する。

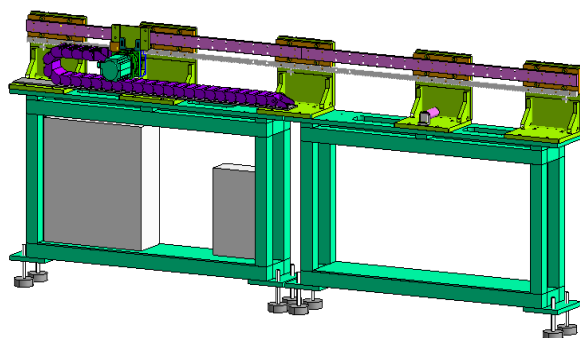
ステイ固定ボルト	M5X10
締付トルク	8.8N・m±20%
ボルト個数	2本

・ケーブルバヤ取付けステイに、ボルトおよび長穴用座金(M6用)でケーブルバヤを固定する。

ケーブルバヤ固定ボルト	M6X10 4本
長穴用座金	M6 4個
締付トルク	14.7N・m±20%



《最終姿》



【ケーブルバヤの取扱い注意】

ケーブル・エア配管の挿入量は、ケーブルバヤ内容積の50%以下にし、配線・配管切れがないよう考慮すること
標準で使用するケーブルバヤ(TKP0580W50R75)の内容量は、1900mm²。